木曽川文庫は治水の資料館。 水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、 これからの治水を皆様とともに考えていきたいと思っています。 今回は木曽三川に囲まれた長島町から、 明治時代、長島から北海道へ移住した人々の 苦闘の開拓史を紹介します。 内水対策シリーズでは、 現代の排水機場の実情を特集します。



INDEX.....

水と闘ってきた輪中地帯、長島町。

TABLE TALK

北の大地に活路を求めて。 長島町の移住者が拓いた、北海道苫前の開拓史

歴史ドキュメント 木曽三川流域における現代の内水対策

TALK&TALK

悪水をめぐる対立と慣行

民話の小箱





国土交通省中部地方整備局 木曽川下流工事事務所

愛知県

かっては伊勢湾に浮かぶ砂州を順次開発し、江戸時代には一大輪中を形成 さまざまなプロシェクトを実施しています 現在は、水と闘う町」から、水を活用した空間づくりの町」へ 昭和三四年の伊勢湾台風では壊滅的な被害を受けますが、 水と湯の郷」をキャッチフレーズに、 官民双方の努力により完全復旧。 木曽三川に囲まれた長島町は、瓢箪型をした南北に細長い島 しかし、相次ぐ洪水や内水被害など、その歴史は、まさしく水との闘いでした。

長島町、その名の由来

川を境に岐阜県に、西側は長良・揖斐川をはさ 三角州。東は木曽川を境に愛知県に、北は長良 んで桑名市や多度町に接しており、海抜はマイ 三重県長島町は木曽三川河口に形成された

千倉~一曲 戸時代の古図には、西外面、松ケ島~一曲輪 形をしているから長島だといつ説もあります。江 島が転化して長島と呼ばれたという説や、長い ナス一.七m。伊勢湾に突き出る瓢箪型をした 南北一二㎞の細長い町です。その名の由来は、七

~一曲輪、押付、殿名~ り、このことから見ても七 川、小島、東川)、鍾間々) 高座、平方~一曲輪、中 江、松ノ木、新所、西川、 輪、下坂手、上坂手、杉 島が転化してというのが 七つの島が記載されてお 一曲輪、大島~一曲輪の

> 海面を干拓して現在のような姿を作りあげて りました。ともあれ、長島の歴史は開拓の歩み り、また度々の洪水により流路が変わたり、地 明川、於多井川、長島川などの小河川。後年、 きました。 こうした島々に堤防を築いて輪中を形成、また これらは土砂の堆積などにより河川敷となった ように流れていたのが、松ノ木川、加路戸川、五 主流のようです。 そしてこれらの島々の間を縫う 震などで陥没地を生じたりと、幾多の変遷があ

交通の要衝として発展

家が故あって長島に流 四五)には、前藤原道 ます。寛元三年(一) 鏡」や海道記など 長島の地名が見られ 末期。その後「吾妻 文献に現れるのは

平安 長島が初めて歴史



ろには、川中に浮かぶ数多くの州を開拓して七 む伊藤重晴がこの館跡に長島城を創設。このこ 二)には、北勢地方に勢力を持つ豪族の流れをく 間居住していたようです。 文明 | 四年(| 四八 され、西外面に八幡社を勧請。館を構えて三年 つの島を形成していたようです。

> って長島は物流の拠点として成長。上流から運 えて、伊勢や尾張へ運んでいたようです。 ばれてくる物資を川舟から海舟にここで積み替 三川を渡る最短ルートでもありました。したが 結んで長島を縦断するように走っており、木曽 に。当時の東海道は伊勢の多度と尾張の津島を た室町時代を背景に、ここ長島も交通の要衝 また物資輸送につては、河川交通が発達し

長島願證寺と織田信長

島・桑名を中心に、現在の尾張西部・美濃南部・ より、浄土真宗の教勢は拡大。その勢力は長 あり、低湿地で要害の地である長島は一向宗拡 北勢地方に広がっていきました。交通の要衝で 祖・蓮如の子蓮淳が長島願證寺に入ったことに 〇年(一五〇一)、浄土真宗(一向宗)の中興の してきたのが、長島願證寺の勢力です。明応 物流拠点としての経済的成長を背景に台頭

拠点。天文六年(一五 證寺の領地となりまし 族を追放し、長島は願 を支配していた伊藤 三七)に、願證寺は長鳥 大を図るための重要な

- 揆殉教之碑

ますます強大化する

ら火を放たれて焼き殺されてしまいました。そ りは、周囲に柵を設けて閉じ込められ、四方か 行われ、最期まで砦に残っていた男女二万人余 徒たち。一〇万人を越える勢力でした。この 伊勢全土を制圧しますが、なおも信長に反抗 南勢の北畠氏も滅ぼしました。こうして信長は の死者は現在の長島町の人口の二倍以上。こう 向門徒と信長の間で起こった戦いが、「長島一向 われた豪族たちを破り、続いて永禄一二年には 年(一五六七)、北勢に侵入し北勢四八家とい 教戦争であり、激しく悲惨な戦りでした。 元亀 して長島一向宗は壊滅しました |年(一五七一)を皮切りに戦りは三回に渡って していたのが願證寺を中心とする長島の一向門 揆」と呼ばれる日本の歴史上で最も有名な宗 天下をめざす信長は京へ上る前年の永禄一〇

天正の大地震と河道の変更

揆で壊滅した一一年後に、これだけの町並みが どの寺院や八幡社などの神社が倒壊しています。 地で地変が起こり、長島城、安養寺、最勝寺な 島一帯が川になったと思われます。長島付近の 決壊による河川洪水に加え、津波が遡上して長 下、地割れ、地盤液状化による泥水湧出、堤防 災の中心は中部・近畿地方。 文献には 尾州長 五八五)、天正大地震が発生しました。 地震の 形成され人口が存在していたかは定かではあり 千名以上と記録には残されていますが、一向 家屋の倒壊は長島一帯で約五千軒、死者は三 予測震度は七の激震。西外面をはじめとする各 島は百八里多以成川」と書かれており、地盤沈 震動域は東北地方から九州の広範囲に及び、被 長島一向一揆の一一年後の天正一三年 (一

係は未だ解明されてはいませんが、おそらく大 発生。木曽川の流路を変更させた未曾有の大 地震による地盤沈下や地殻の変動が、流路まで 水害です。天正の地震と翌年の大洪水の因果関 天正の大地震の翌年には木曽川の大洪水が

> 変更した大水害を引き起こす要因になっていた ことは想像に難くありません。天正の大洪水以 、木曽川は現在のような流路となりました

に着々と勢力拡大を図っていた織田信長でした。

向宗の勢力を危惧したのは、尾張地方を中心

長島輪中の成立

術を新田開発に生かすことができた、ことなど 奨励したので、小農が土地を拡大しようとする より多くの年貢を必要とした。 幕府や諸藩 大名統制によって藩費が増大したため、各藩は 万治三年(一六六〇)以後の四〇年間に集中し 氏が長島二万石を封ぜられ、以来、明治維新に 主となり、元禄一五年(一七〇二)以降は増山 の発達によって土木技術が急速に進み、その技 適地が多数存在した。 その他、鉱山業や数学 続いたので、その間、三角州の形成が進み、開発 意欲に燃えた。戦乱などの不安定な時代が は権力の基礎を小農に置き自立させる政策を ています。この時期に新田開発が集中した理由 ます。その南に葭ケ須輪中が開発されたのは を築留めて一曲輪として長島輪中が完成してい 初期には新田開発が活発化。元和九年(一六二 なるまで、八代に渡って長島を治めました。 江戸 七世紀のこと。江戸時代の新田開発の約七割は 三)には築留工事を行い、今までの長島七曲輪 七世紀になされており、その中でも約五割が 江戸時代に入ると、菅沼氏、松平氏が長島藩 参勤交代や諸役、普請など、幕府の

株地割制度と治水対策

と、梅雨や長雨時には輪中内に悪水が湛水する を平等に負担する株地割制度を、江戸初期か という内水被害が発生するようになりました。 ら農民たちの手で行っていました。 長島輪中では内水被害による農業上の損失 新田が開発され輪中が成立するようになる

とし、それを農民に分配し、一定年限後に交換 味や水利などによって、上・中・下・下々田の等級 に区分。各等級の田を平等に組み合わせて一株 基準にして株数を定め、村の大部分の土地を地 株地割制度とは、村の農家戸数及び人口を

> が実施されました。 大事業、薩摩藩の御手伝普請による宝暦治水 宝暦三年(一七五三)には、近世史上まれにみる 界があり、水害を防ぐことはできませんでした 心していましたが、輪中の人々や小藩の力では限 て守らせています。このように長島藩は治水に腐 は、藩士に堤防の持場を分担させ、人夫を率い 七一六)に長島輪中の上流部と下流部の隔中堤 同様。増山氏二代の藩主正任は、享保元年 取り組んでおり、これは長島藩の歴代の藩主も た、洪水による農地の復旧に対しても積極的に とで、各戸の収入安定を図った制度でした。ま に食い止める工夫をしたり、春と秋の増水時に (いげた)を築いて、洪水時の水の侵入を最小限 した制度です。 水腐れ地を定期的に交換するこ

芭蕉と曽良

名がついたようです。叔父が住職を勤めていた大 曽良の名は木曽川の曽、長良川の良から曽良と 松尾芭蕉の門人曽良は、長島ゆかりの人物



び芭蕉とともに大智院に逗留しています。 中で腹を痛めたため、一足先に長島に向かい、そ 禄二年(一六八九)のこと。 しかし途中加賀の山 蕉が曽良とともに、奥の細道」の旅に出たのは元 なり、研鑽を積みました。 芭 こで休養をとった後、大垣で芭蕉を出迎え、 伊勢の国長島大智院に信宿すはせを 再

Q 現在、大智院の門前には、寛政元年(一七〇 この句は芭蕉が大智院で色紙にしたためたも うき我をさびしがらせよ秋の寺

> 九)に芭蕉の来訪百年を記念して、時の藩主増 が建っています。 山雪斎によって建立された、蕉翁信宿処」の石碑

キャッチフレーズは、水と湯の郷」

水事業により、長島町は現在のような形となり 実施。木曽三川の分流を実現した大規模な治 ました。 明治二〇年には、木曽三川下流改修を 業をイーガンに、さまざまな大事業が実施され 明治時代に入ると、政府は富国強兵・殖産興

地などが河川に水没 地を生む一方、農耕 路変更は、新たな耕 地や居住地を失った より水害は激減しま した抜本的な改修に 人々も。大規模な流 したが、その一方で耕

最新の技術を導入

上しました。 防改修により、長島の治水安全度も一段と向 旧。平成七年の長良川河口堰完成と周辺の堤 けていますが、行政と人々の努力により完全復 生。長島町も全町水没し、壊滅的な被害を受 千人以上の尊い人命を奪った伊勢湾台風が発 された昭和二九年のこと。昭和三四年には、五 する犠牲を払ったのでした。これにより、一部の 人々は北海道へ移住。 新天地を開拓しています 現在の長島町が誕生したのは、町村制が施行

へ変貌を遂げようとしています。 **闘いの町」から、水を活用した空間づくりの町」** りを実施。二一世紀を迎え、長島町は、水との と湯の郷」をキャッチフレーズとした新しい町づく 後の発展が期待されています。そして現在は、水 通しました。三重県有数の観光の町として、今 平成一四年三月には伊勢湾岸自動車道も開

参考文献

『長島風土記』平成一二年 著者『長島町誌』上下巻 昭和五三年

『愛知県地名大事典』長島町ホームページ

地先から始まりました。 三川下流改修が木曽川右岸三K付近・横満蔵 明治二〇年、近代治水の幕開けとなる木曽 開拓史前夜、移住・移民、その背景

四八戸と云われています。 は農耕地を失った小作農の人々です。明治三 求める最終決断を余儀なくされたその大部分 の村民が移住。将来の生計安定を未開の地に 苫前(古丹別)、美唄(茶志内)、深川等に多く 曽島村から石狩国へ移住したのを始めとし、 が率先して北海道移住を勧誘。明治二八年伊 道移民政策に呼応し、横満蔵の太田松次郎氏 **慮する農民たちは、当時政府の奨励する北海** |年頃までに長島輪中から北海道移住者は| 改修に伴う耕地の激減と地震、風水害に苦

稲垣吾一郎: 三六戸、字九重)が明治二九年に 藤太郎:二五戸、現在字長島)、伊曽島団体 は実りの時を迎えたのでした やがて苫前を豊かな農地に。苫前古丹別原野 移住。当時彼らの想像を絶する開墾の日々は 古丹別)、三重団体(三重県各地より、団長・ 、団長・伊藤軍治郎:二五戸+単独一○戸、字 現、苫前郡占前町には長島団体(団長・伊藤

新天地を求めた人々。

中野: 明治二九年春、長島団体は伊藤藤太郎

《移住、その世話人

った。母親は私が九歳の年に亡くなっており、 ありますが、そこは四国から入った人が多か だと聞いています。苫前には香川という地区が 旭川に屯田兵として入ってきましたが、農業 入植当時の話を聞く機会がありませんでし 太郎の妹です。父親は四国出身で、当初、東 を団長に苫前に入植しました。私の母親は藤 に従事したいということで、ここへ入植したの

もった人でしたね。 私が小学校の時分です。昔ですから、着物を だった。 しかし、健康を害して帰ってきました。 くんだといってね。非常に大きな構想をもつ人 していた。 風流というか奇抜というか、 野望を ながら、樺太へ行きました。 樺太で炭鉱を開 看流して帯をしめて、釣棹をもって川で釣りを 藤太郎さんは団長としてここに住居を構え

立たなくなったので、藤太郎さんとともに開拓 をやるという。それでどうしても生活が成り 丹羽豊治: 私も長島団体の出身です。 親から をした、と聞いております。 ただでさえ耕地が少ないのに、また改修工事 聞いたことは、とにかく長島は水害の常習地。

があったようです。 するためだと思っていましたが、いろいろ事情 憶になり。 移住したのは、二男・三男を間引き 父は入植当時の話をしてくれたが、あまり記 堀: 苫前で生まれて育って七〇年になります。

う集落があります。出身地を地名にしたんで

苫前には伊曽島団体が開拓した伊曽島とい

移民たちの苦闘の日々を 長島町から北海道へ移住した人々。 子孫の方々に開拓の労苦を 後世へ伝えるために、 水害や木曽三川改修により 語っていただきました。



さんを頼りに来たと聞いております。 二九年なんですが、一年遅れて、伊藤藤太郎 小澤: 出身地は伊曽島です。 長島団体は明治

う集落は、三重団体が開拓したところ。団体 ばかり。今思い出すとね。私が住む九重とい はあんまりしないんだね。 開拓の夢のある話 で育っておる。うちのじいさんの話では苦労話 征し戦死してるもんだから、私はじいさん子 昭和一〇年生まれ。親父は私が八歳の時に出 て入ってきた。出身地は伊曽島村です。たま 森:うちのじいさんは一九歳の時に二年遅れ たま私は三代目ですが、この中では最年少の 長は板垣贇夫さんでした。



小澤 正則 73才) 入植者:小澤仁吉(祖父) 桑名郡伊曾島村出身 明治29年5月入植



森 晃一(67才) 入植者:森 仁三郎(祖父) 桑名郡伊曾島村出身 明治32年1月入植





堀 豊 72才) 入植者: 堀 豊左衛門(祖父) 桑名郡長島村出身 明治29年5月入植



丹羽 豊治 79才) 入植者: 丹羽 卯八(祖父) 桑名郡長島村出身 明治29年5月入植



丹羽元一(89才) 入植者:丹羽卯八(祖父) 桑名郡長島村出身



中野英三(86才) 入植者:伊藤 ム火 母親) 桑名郡長島村出身



の土地になる。ということで来ています。長鳥 それで道庁に相談に行ったら、区画割した新 ら歩いて行かなければならない。困難だった。 ずだったのですが、十勝まで行くには、滝川か れられる。私どもの三重団体も十勝へ行くは 天地・古丹別に農地を一区画ずつやるところ ているから、北海道へ行けばまず水害から逃 に誘われて、北海道へ行けば開いただけ自分 しょう。 団体長は、伊藤軍治郎さん。 その人 にいれば、木曽川が荒れて水害で相当苦労し

り、北海道へ行けという話だったんですよ。 だからもう土地は耕してもらわんでもいいっ のやり方が悪いから年貢も払えないんだと のうちに移住を決定したそうです。その時の てことになった。下手な農業に土地を貸すよ 庄屋さんに相談にいたところ、おまえは農業 した土地だけもらえる」という。 それでその日 移住への道のり》

らは鰊番屋があったからかなあという気がし 郎さんが北海道庁に知人がいて相談にいったと 事実はどうなのかはわかりません。 ただ、こち 堀: 最初は十勝へという話でしたが、 伊藤藤太 ころ、苫前の方がええぞっていう話になった。

がある苫前に入植しようという話が持ち上が 歩で行かなければならなり。ということで港 みたら、帯広には海や港がない。現地まで徒 帯広へ決めてきたのだけれど、いざ渡ってきて 収穫はたくさんあった。いい所だということで 躯で。そこへ家族が心配で見に行ったところ、 衛門が帯広に入植したんですよ。 七二歳の老 中野:明治二八年には、長島出身の伊藤甚左 ったのだと聞いております。

森:船です。 四日市港から小樽港に入り、そ 二里でした。 こからまた舟を利用。苫前の港から九重まで

があるからということで、 北海道へ来てから急きょ変 更したそうです。

んに相談にいったら、「北海 った。鍬で。寒いから切っ へ渡った時、うちの親は一 丹羽元一:私はこの中で最 局齢。 祖父母から聞いた話

道へ行ったら、自分の開拓 持ちあがっていて、団長さ す。そのころ、移住の話が たという覚えがないそうで 親父は田んぼで足の指をき 五歳でした。 移住する前、 をします。 長島から北海道

がりくねった川。橋のない川。 丹羽豊治: 今みたいにまっすぐな川でない。 中野:港から舟で川を上ったんですね。

想像もつかない所に住んでおった。 ていた。それで、朝起きると笹の葉っぱが落ち 料を読むと学校の先生も笹小屋に寝泊まりし けど、個人個人の家で暮らしていた。 当時の資 た。 今で言うアパートみたいな。 でもうちのじ 帯が一つの笹小屋を作って共同生活をしてい 体が来た時は、四つの組を作った。それで四所 渡した。入植当時は橋がかかってないから。あ って両岸にロープを張って、それで女子どもを 森:大水が出た時には、泳げる人が泳いで渡 てきていた。笹が乾燥したんだね。 いさんが来た明治三一年には、笹小屋だった とね、じいさんから聞いた話では、最初三重団 今からは

土地を自分の手にするまで》

り出して行った人もいたが、うまいこと、後か さんたちが入って開拓をした。いやんなって放 ら行った人々が開拓したんだね。 だけど、一年か二年で開拓しないでやめてった くじ引きで配分したらしい。九重の場合は。 た。そこへ、入ってまず共同で開拓して、今度 森: ちゃんと、 五町一株ずつ区画割がしてあっ 人がいる。 そういう土地へ今度うちらのおじい

働いていた。

丹羽元一:いや、やっぱり抽選したという話だ 中野:現在の長島地区は、最初から個人で開 拓するように割り当てていたようですよ。



げしてもらえる。 を受けて、土地を所有できた。途中で逃げだ は家族だけでやった。その後施工検査というの した人はもらえない。 農地になって初めて払下

中野:抽選で土地を配分したんだけど、開拓

と聞いている。

風雪に耐え幾多の困難を乗り越えて。

原生林からの出発

ず家族が食うものをたくわえる。 りを良くして種を播く。それで収穫して、 したから、 まず木を倒すこと。 そして日当た 中野: 私が聞いているのは、大木が生えていま ま

焦がして燃えるから。 つけると子どもが喜んだ。きれいで。夜空を は後回し。それで夜、火をつけて燃やす。 火を 播きつけろですわ。 木の根っこをかたづけるの とき、少しでも鍬で起こしたら、すぐ作物を だろうね。うちのじいさんの話では、開墾した 明るくなった。それだけ樹木が密生していたん によれば、一本大木を切り倒すと空がパアと タモっていう木が多かったようだね。 古老の話 森:大人が二人で抱え切れない大木があった。

森:木の根っこをなくすのに何年もかかった。 が、消したという話は聞いていない。 きっと、き 中野:湿度が高かった。燃やしたって話を聞く れいに燃やしたんでしょうね。

中野:明るいうちには、家には入っていない。 堀: 夜も寝ないで稼いでるという人もおったん

った。それとまず そういう楽しみがあ いく、増えていく やっぱりその開いて 然苦労とはいわない いさんの場合は、全 森: それをうちのじ がりから暗がりまで

タモの木と古丹別川の三日月湖

FABLE TALK

ろがない。 それしか 今のように遊ぶとこ

米の飯を食うのが楽しみだった。うんと働い て一升飯の親分との綽名がついた。それほど たと。またある代用教員は、一回に七合食べ が楽しみ。古老の話では一回に五合ずつ食り ない。だから、集まったらご飯を炊いて食うの て、腹減るから。

中野: 土地にはすごく執着していましたね。

《獣とのたたかり

すね。家の前の川の向こうに綿羊がいました も見たことがある。僕の親父は猟師だったんで 小澤: どこにも熊はいた。 僕も山の中で何回 一晩のうちに綿羊が熊にやられて。

事件の後は恐怖心で気をつけるようになっ けど、夜はみんな出て歩かないから。ヒグマ もりしないので食うものなくなって人を襲った 知らぬが仏で。かかってくるていうことはない。 いるからでてこなかった。夜になると出てくる 森: 昼は火を炊いたり、かんから音を出して マが空腹から十人の婦女子を殺傷した事件。 って事でしょう。大正四年だったね。巨大ヒグ 堀:有名な苫前郡三毛別のヒグマ事件は、雪・ な恐ろしい動物だと思っていなかった。 どっちも 森: じいさんの話によれば熊はいたけど、そん

小澤: 農作物を荒らしたのはムジナですね。 狐 には鶏をやられましたよ。

たき火もない夜は零下二〇度

わらぶとんはあったけど。 で笹小屋でさ。よく火事起こさなかったなど 森:当初はストーブはなかった。たき火。それ

う話は聞いたことがない。 中野:寒さで苦労したとか、逃げ出したとい

でいたようですよ。 の上が真つ白になった。そういうところに住ん 森: 吹雪の時は家の中に雪が入ってきて、布団

あったそうです。 堀:零下二○度になるというのは年に何回か

ほど寒い中、火も炊かないで寝ている。 る。「窓ガラス大しばれ」と記録している。 それ がうんとしばれると、一つも外が見えなくな 記録によると、窓ガラスがあるでしょう。 それ 森: 当時は温度計ないから。 うちのじいさんの

丹羽豊治: この寒い北海道でご婦人がたはモ ンペもはかずに開拓したっていうんだから、大 したものだと思う。

生活の基盤を着々と築く。

自力でつくった橋だから、なんか流木一本ひつ るのだが、どれか一つは必ず流される。みんな を敷いた道路を作った。今なら想像がつかな ったっていうもんね。雨が降ると。だから丸太 は、泥炭地があって、相当遅くまで膝までぬか って来ると、雪を利用して馬そりで砂利挙げ ね。毎年、収穫が終わった一一月になり、雪降 けど、全部共同作業で、自力で道路をつけて ちゃって。今なら道路整備も国でやってくれる を持っていかなければ帰れなかった。 すりきれ たのは橋が流されたこと。必ず雪解け水で。 い。 排水もなかったから。 水害で一番苦労し 履物がなくってわらじだから。 わらじの替え 言う一二㎞ですか、その間を歩くのに、昔は 森:道路はなかった。 だから九重は三里、今で 一気に水が出る。九重の橋は五箇所くらいあ 二日も四日もやってね。特に九重というところ

の家も古丹別川の割り合い低い所にありまし 流しています。 川が多い町ですよ。 苫前は。 私 中野: 苫前町では、三つの川が古丹別川に合



古丹別川

ったのはかなり後です。 森: 飲水は沢の水ですよ。 自然水。 井戸にな たから、被害はあったようですね。

中野: 当時、長嶋泰蔵さんという人がおりま

《産業組合の設立》

して。内地の商人です。長嶋さんが日用品や

が収穫がないとか、水害にあったとかで借金し 衣類、食料品などを調達してくれた。 ところ

った人には金を出し合った。 番最初につくった。自分たちで金出し合って困 協同組合の前身を、私の住んでいる九重で一 とられないような方法にするために、昭和に 金を借りれば土地を取られる。それで土地を ないが、金は絶対借りるな、という口癖だった。 作になった。それでうちのじいさんの遺言では 正末期から昭和一〇年代にかけてどんどん小 地を取り上げられた。小作になったわけ。大 ころが運悪くその年も冷害だったと。それで十 い。それで今言われた商人に金を借りた。と 冷害や災害があったら借金しなければならな 森:本来は自作農を求めてここへ来たのだが、 丹羽豊治: 長嶋さんは佐渡の人でした。 保にとられて、小作になるわけ。 ますね。そうすると自分が開拓した土地も担 入って昭和六年頃に産業組合、今で言う農業

《人々の心を支えた社寺》

基につながっていくのですよ。 し、また、広円寺という浄土真宗のお寺の開 丹別に説教所をつくり、算術読書を教えた。 龍奘住職が伊曽島団体の招きで、明治三〇年 た。三重県長島町の野亨寺・三世住職田鶴浦 中野: まずお寺が建ち、そこに説教所ができ に北海道へ渡ってきたのですよ。その住職が古 この説教所がやがて古丹別小学校になっていく

学校を。それも運悪く火事で燃えてしまって 森: 九重もそうだね。 村の人みんなで建てた **丹羽豊治:** 田鶴浦住職は学校の設立にも奔走 お寺の果たした役割は大きかったんですね。 もたちが遊んだイチイの木が残されています。 **堀**: 広円寺の境内には、そのころ説教所の子ど 集落の人々の寄付を集めて学校を建てた。 されたようですよ。 でも村の財政は苦しくて

木を山へ切り出しに行った。 だから、村の人みんなで学校を建てるための

たということも聞いています。 上から末弟までりしょに学校一年生に上がっ 堀: 本当かなと思うことは、兄弟三人、一番

ら、選挙が一番いやだって。 えれば字を覚えられたのに。字が書けないか あさんよういいちた。 学校へ上げてさえもら 森:行かなかった子もおった。だからうちのば

ですんだという人もいた。 中野: 昔、ノートー冊で一年生から六年生ま

りをしっかり持ってきていたね。今では三代目 のふかし方など、そのままやってたらしい。 だから習慣はないけど。当時は供え物や赤飯 うちらのじいさんのころには、三重県のしきた お祭りを作って。お祭りしか休みがないから。 から神社へも最初は全員がお参りしていた。 った。集会所として。それしかないもんね。だ た。それと神社とお寺は生活のよりどころだ だったんだろうけど、行きたくても行けなかっ 森: 結局、うちの手伝いさせられて。 義務教育

堀: 苫前町は人口の少ない割りには一〇以上 にもできました。それが分教場の始まり。 寺がありました。弘法大師の。その寺が苫前 中野: 私の四国の父親の方には霊厳寺という

に三〇日以上、日照りがあった。昔の晴れは 森: こんな話も聞いております。 大正一三年



又木茶屋でティープレイ



その昔、長島は尾張と伊勢を結ぶ水上の要地でした。行き交 う旅人は美しい川の風景に息を呑み、しばしたたずんでいたこ そんな長島川のほとり、国道1号が交差する所に とでしょう。 新しい情報交流施設「又木茶屋」が誕生しました。長島出身の 画家、佐藤昌胤氏の屋敷を譲り受け、建物は修復・整備。趣豊 かな庭園も魅力です。邸内はギャラリーを備えた休憩所となっ ている他、輪中独特の暮らしや風景、史跡など、今なお残る長 島町の歴史・観光・物産を紹介しています。入館は無料。長島 焼きでいただくお抹茶はオススメ。(季節のお菓子付/350円)

なばなの里でフラワードリーミングを。



長良川河口堰の隣には、夢のような村があります。なばな の里は四季折々の花が咲き乱れる広大な楽園。4棟から成る 大温室では、ゴージャスな球根ベゴニアをはじめ、世界各国 から集めた数百種・1万2千株の絢爛たる花々を常時栽培・ 展示。併設のハーブガーデンとともに、訪れる人々を華やか にお出迎えします、お花畑の中には各種レストランや天然温 泉など多彩な施設も設けられています。歩き疲れたらぜひな ばなの足湯で心身ともにリフレッシュ!鮮やかな絵画のよう な風景の中、のどかなひとときを楽しむことができます。

しを体感!長島町輪中の郷。 論中の



年々消えていく輪中の生活や伝統。これらを後世に伝えるた めに長島町が作った複合施設です。市原悦子主演の一向一揆 の映画や水屋の移築展示・のりすき体験など、見どころは盛り だくさん。長島ゆかりの芸術家の特別展なども開催しています。 館外には体験農園も。土と戯れながら、本物の野菜を収穫する ことができます

長・島・町・の・歳・時・記

三町石取祭



江戸時代から 続く勇壮な祭り。 3台の豪華な山 車が鉦や太鼓を 打ち鳴らし、町 内を練り歩きま この三町 す。 (萱町・中町・下

伊勢湾岸道路

長鳥温泉

伊勢湾

町)の石取祭りは、稲荷社境内秋葉社の神事とし て行われ、神社の玉垣の敷石を1年に1度更新す るために、町屋川から美しい石を拾ってきたのが 始まりです。

輪中の郷

第8回全国水の郷サミット inながしま



長島町は平成七年度「水の 郷」に認定されました。この 水の郷」は水をめぐる歴史や 生活文化を発展させるととも 優れた水環境の保全に努め 水を活かした街づくりに成果を 挙げている地域を選定し、広く 全国に紹介しようというもの。

認定地域は107の地域、115の自治体。10月に は第8回全国水サミットが長島で開催されます。 10月24日・25日 ホテル花水木コンベンションホール

長島I.C 東名阪白動車道 JR関西本線 大智院 ながしま 近鉄名古屋線 0 尾張大橋 又木茶屋 伊勢大橋 **◇**木曽川 なばなの里 木曽川大橋 揖斐長良大橋

長島町 EVENT INFORMATION

・長島リバーサイドマラソン 3月第1日曜日 ・長島ツーデーマーチ 4月第1土・日曜日 ·三町石取祭7月最終金·土曜日

・カルチャービレッジピクニックパーティー (輪中の郷フェスタ)......5月下旬日曜

カルチャービレッジ水郷フェスタ

......10月下旬日曜



桑名郡長島町

〒511-1122 三重県桑名郡長島町大字松ヶ島38番地 長島町役場企画課 TEL(0594)42-4117 長島町役場総務課 TEL(0594)42-4111

TABLE TALK

来ると白い飯が食べられるというんで喜んだ のおじいさんは明治四三年頃から米は食って 森:米を腹りぱり食べたりということで、 (現・九重神社)で雨ごいをしました。 だから子どもたちは、盆とか正月、お祭りが いるけど、一年に家族みんなで二俵か三俵か 一生懸命水田づくりに向かっていた。 稲作の品質改良への取組みり うち

みん

という話は聞いています。 九重では明治三八年に水田の試作はしてい 本格的には大正五年頃から始めた。 内地から持つてきた水稲だか

七日間雨ごいで泊まり込んだ。やはり神頼み ばつが来たら作物が枯れる。そこで三重神社 本当に五月晴れ、透き通った晴れ。 だから干

がある。 らい。それでも穫れればいいくらい る年は一反五俵くらい。穫れない年は一 森: それは毎年ということではありません。 こは五俵とれても翌年は一斗もとれないこと 冷害に強い稲ができるまで。 冷害がくると種までとれないことが 三重県は毎年平均ですから。それが

澤: 聞いた話によると、北海道のここらへん 一回くらいは冷害があった。 正十 |年には用水路が完成し穀倉地帯とな

っ

中野:私は九歳で母親を亡くしてますが、 のころには黍とか粟を食べた覚えがなり。 しかし、水田は冷害だと実らなり。 大正中期には水田を作っていたんでし 人人 麦飯 実

改良をちた。

今後、先祖の土地は

重県出身。 場ができてそこで大正年代には積極的に品種 げが多いと。それで坊主という、毛のない品種 ど作業に困る。チカチカして、かゆくてね。 か毛のついたのが冷害に強かった。 昔 あるやつが実が入ってるわけさ。それを抜き干 実の入るやつがあるでしょう。たまたまひげの 初に植えて。 それで寒い土地でも何粒かでも に今は変わってきている。 その内、国にも試験 北海道で冷害に強いのは白毛とか赤毛と そして堤白毛という品種を改良をして。 ところが白毛は冷害に強いんだけ 堤さんも三

森: 九重の農家は昭和三〇年代で九五戸あり ましたが、今は六〇戸の内、 専業農家四五

森:堤増太郎という人が初めて九重で一番最

小澤:一五町歩の田んぼを作っていた時が経戸。 れで野菜やメロンを作ると金がかかる。 済的には楽だった。しかし今は減反の時代。

もの。意欲のある後継者も多くやっぱり大切 明るくないよ。 森: ただ、二一世紀の農業を思うと先行きは時の苦労がわかるが、今の若者も大変。 先人たちが苦労して拓いてくれた土地だ 過疎化も進んでいるしね。 だけ

も頑張っていきたいものですね。 ンエネルギーを供給している風力発電の町と 中野: 苫前は今、強風を逆手にとり、 に守っていきたいものだね。 して全国的にも脚光を浴びていますが、 クリー 農業

'会: 貴重なお話をありがとうござました 出席者(敬称略

揖斐川



伊勢湾台風や集中豪雨などの災害も多発し、 明治時代には動力の排水機を導入しましたが 内水被害は深刻な課題でした 内水被害は軽減し、治水安全度は向上しています そこで、建設省(現国土交通省)直轄事業として 内水被害はますます深刻化しました。 抜本的な解決には至りませんでした。 輪中が点在する木曽三川下流域において 本格的に内水対策事業を実施 しかも昭和三〇年代以降に地盤沈下という問題が発生。

内水被害と歴史的対策

水排除能力は向上しましたが、木曽三川が合 省と岐阜県によって支派川改修が実施されま せんでした。こうした背景から、抜本的な内 向上しました。しかし排水機は農耕地を対象 明治中期まで続きますが、以降、技術の進歩 が主流でした。このような内水処理方法は、 当時の内水対策は、 田畑を嵩上げする堀田 されるようになると、梅雨期や台風シーズン 代のこと。新田開発が進むにつれ輪中が形成 地帯は古くから、内水の被害に悩まされてき 列し、標高もこの順に低くなっています。 この 状地帯、自然堤防地帯、デルタ地帯が順に配 した。この改修によって上流部、中流部での悪 水被害対策を行うために、昭和三年より内務 したものであり、排水能力も充分とはいえま になり、悪水被害が度々発生していました。 ました。その傾向が顕著になるのは、江戸時 ため特に、長良川と揖斐川にはさまれた低湿 により動力による排水機を導入。 排水能力は には輪中内に堪った水を排水することが困難 濃尾平野は北東部から南西部にかけて、扇 悪水路を下流に延長する江下げ方式

には至りませんでした。

被害は深刻でした。 雨、同四九年の集中豪雨、同五一年の台風 を与えるようになりました。こうした状況下、 がって、内水の被害は住宅資産に大きな打撃 七号と前線による豪雨が発生し、内水による 濃尾平野一帯は、昭和三六年の梅雨前線豪 住宅が建築され、かつては三種の神器といわれ 長の波を受け、都市化が進展。水田地帯にも た電化製品を保有する家庭も多くなり、した しかも、昭和三〇年代以降は、高度経済成

順次、排水機場の整備を行っています。 駆けて内水対策事業を本格的に実施すること (現国土交通省)の直轄事業として、全国に先 になりました。昭和三七年度から、犀川・水 ||川の排水機場新設に着工したのをはじめ、 そこで昭和三六年の災害を契機に、建設省

● 正木川 早田川

岐阜市

境川

高須排水機場

大江

山除川

肱江川

沢北川

中です。わが国でも有数の輪中で、岐阜県海 う木曽三川公園。水郷地帯として今ではすっ 津町、平田町、そして羽島市の一部に広がって かり穏やかな表情をみせるこの一帯が高須輪 四季折々の花が咲き乱れ、多くの人々が生

流する下流部では、依然として解決するまで

直轄内才	x対 :	策排水場一覧			
河川名	- 1	非水機場名	内水河川名	流域面積(km²)	計画排水量 (m³/s)
木曽川	1	加茂川	加 茂 川	18.9	25.0
長良川	2	新桑原川	桑原川	24.8	15.0
	3	境 川	境 川	57.8	35.0
	4	境川第2	境 川	57.8	40.0
	⑤	犀川第3	天 王 川 ・ 犀川・高野川	42.2	35.0 (40.0)
	6	新荒田・ 論 田 川	荒 田 川論 田川	17.6	13.0
	7	荒 田 川 論田川第2	荒 田 川論 田川	17.6	20.0
	8	糸 貫 川天 王 川	糸 貫 川 天 王 川	29.1	56.0
	9	両 満 川	両 満 川	4.2	12.0
	10	日 野	岩山下川岩 地川		6.0
伊自良川	11)	根尾川	根尾川	4.9	10.0
	12	早田川	早田川則	3.8	20.0
	13)	正木川	正木川	3.2	10.0
	14)	新 堀 川	新堀川	8.6	20.0
長良川	15)	長島	長島川	10.4	10.0
揖斐川	16	城 南	新 掘 川	11.8	40.0
	Œ	沢 北	沢 北 川	3.8	15.0
	18)	大 江	大 江 川	4.8	9.0
	19	高須輪中	大 江 川 中江川など	48.0	75.0
	20	南 部	長 除 川田 鶴 川	12.7	8.25
	21)	津屋川	津屋川	71.2	9.0
	22	福 束	大 槫 川	18.7	26.0
牧田川	23)	新水門川	水門川	21.0	26.0 (+21.0)
	24)	金草川	金草川	14.4	25.0
	25	平野井川	平野井川	9.9	3.0

()書きは臨接の排水機場(県管理

西に揖斐川 います。東 に挟まれて に長良川、

以下という 全体の六割 古くから洪 低地のため、 が海抜○m おり、地域 水の常習地 帯。堤防の

り返しなが 嵩上げを繰

の歴史もま める長島町 の人気を集 島町。若者 を浴びる長 として脚光 ーゾンーン

た、水害と

た。嘉永三 の闘いでし

床は内部の輪中 良・揖斐両川の河 ました。 また、長 ら、水と闘ってき

たがって、大雨が よりも高く、し

年(一八五 気機関による排水機場が設置されたのは明治 いう内水河川が流れています。ここに初めて蒸 ○m以下という低平地。輪中内には長島川と 木曽三川に囲まれた長島輪中の大部分は海抜 ていきましたが、大きな効果を上げることが 三八年のこと。以来排水機は徐々に改良され 一)には堤防が決壊し、大打撃を受けました

きな被害を受け 期間湛水し、大 降れば内水が長

ていました。 この

ような悪条件に

ありながら内水対策は進んでおらず、昭和三



頃から地盤沈 も多大で、この

下も深刻な問

田畑の冠水、公共施設及び交通不能による総 ○㎝湛水したままの状態でした。家屋の浸水 は約一m湛水し、一週間後でも約六割が約七 間降り続き、総雨量は八〇㎜。地域内の八割 深刻でした。中でも昭和三六年の豪雨は一调 四年の伊勢湾台風をはじめ、度重なる被害は

被害額は、当時の価格で一〇億円近いもので

あったと推定されています。

必要が生じ、昭和四八年、高須輪中排水機場

このため、早急に内水排除施設を設置する

に着工しました。

排水機場は、輪中の中を流れる大江川に隼

をみると、昭和三六年 り、地盤沈下は顕著な も利用されるようにな 水需要が増加。地下水 業地帯は急成長を遂げ に海抜○m以下の地域 尾平野全体の地盤沈下 ものとなりました。濃

平成一二年度までに合計五台のポンプが完成 和五〇年に最初のポンプ一台が完成。その後 められた雨水を揖斐川に排水するもので、昭

内水被害防除に効果を発揮しています。



とする中京丁

名古屋を中心

題として浮上

(激特事業)として採択されました。 第二排水

水機場が、河川激甚災害対策特別緊急事業

って、境川第二排 た。この洪水によ 莫大な被害でし 八三億円という 〇一戸、被害総額 水家屋、一四 域においては、 たらし、境川流 曾有の降雨をも

秒二〇mで、昭和五四年に完成しました。 機場の規模は、計画排水量毎秒四○mの内毎

木曽三川治水百年のあゆみ

建設省平成七年

してきました。

川の堤防がなければ、満潮時には町内のほと り、長島町全体の平均地盤の高さは、マイナス の七一㎞と比較して、最も大きい値になってお 九五㎞に。この値はわが国の〇mゾーン地帯の が約一八〇㎢であったものが、平成四年には三 んどが水面下になってしまいます。 面積としては、関東平野の一六〇㎞、大阪平野 m以下となっています。 したがって、木曽三

長島排水機場

て、また新 ロントとし

リバーフ

長島排水機場

しいレジャ

設の第一期工事を実施。長島排水機場は、長 昭和五七年より五九年にかけて、排水機場建 による被害は軽減し、治水安全度は向上して 島川の流末付近に導水路を設け、長良川左岸 に排水しています。 この排水機場により、内水 こうした状況から内水被害を防ぐために

美濃と尾張の境をなしていたことに由来して 分岐点も徐々に陸地化され、一七〇〇年ころ (一五八六)の大洪水により木曽川と分岐し、 いるといわれています。 には、現在の河道となりました。その名称も 境川はかつての木曽川の本流。天正一四年

停する傾向にありました。 江中島で大江川と並流し、羽島市子熊町地先 は屈曲が多く、流れが穏やかなため、悪水が で長良川左岸に合流しています。 流路の特徴 途中岐阜市の排水を合わせた後、岐阜市日置 河道は、金華山の北東部及び日野の山麓から 枝輪中、足近輪中などを流れています。その 現在は、岐阜県の笠松以東の加納輪中、松

風による被害

た。伊勢湾台 できませんでし

は至りませんでした。 修が実施されていましたが、抜本的な解決に がなかったことから、洪水時には長良川の水が 逆流。その影響は上流十数㎞に及んでいまし た。このため、境川放水路の開削や支派川改 さらに長良川左岸の合流点には逆水止樋門

たっては、 自己流域の内水被害の 軽減はもちろ まりにも甚大で、内水被害対策の根本的な検 討が必要となりました。 排水規模の決定にあ 昭和三六年六月の集中豪雨による被害はあ

『高須輪中排水機場概要』

木曽川下流工事事務所

高須輪中排水機場。木曽川下流工事事務所

、水郷の町をささえる長島排水機場と

木曽川下流工事事務所

昭和六三年建設省

木曽三川~その流域と河川技術

ぼ倍に近い値を 六年の水害のほ 画排水量は、三 とを考慮し、 害をなくするこ への溢水による被

に着工し、同四 場は昭和四〇年 境川第一排水機

犀川第三排水機場



長良川流域に未 台風一七号は 事は完成してい 五年五月末に丁 年に発生した また、昭和五

対象として、毎秒 水量としました。 三五㎡を必要排 んのこと、羽島市

水をめぐる
 対立と

伊藤 安男氏

略 歴

立命館大学文学部地理学科卒、花園大 学名誉教授、文学博士、岐阜地理学会会 長、岐阜県古地図文化研究会会長、歴史

主なる著書

『輪中』『ふるさとの宝物 輪中』『変容す る輪中』『治水思想の風土』『地図で読む 岐阜』など多数。



けの悪い水田のたまり水などで作物の成育 が、江戸期の低湿地、輪中地域では「水は い水、飲めない水、汚水などと理解される いていささかの抵抗を感じていた。 自身もその理解度の点で悪水なる用語につ があればというご意見をいただいた。筆者 難いので「輪中用語辞典」のような刊行物 の読者より"悪水"の語は現在では理解し 悪水湛水」の小論を稿したところ、二、三 多くの人々は悪水といえば文字通り、悪

ときハー水吐の為め江堀を立て悪水を落し町場など水いかり、水冠り等に成ること有 節江堀を立 水吐せ申を悪水吐と云"とあ どの町居水いかり申様成時水吐能いたし候 間にかけて記述した地方書『美濃地方品目 代官の辻六郎左衛門守彦が正徳から享保年 かね、作毛水腐に成るか、又八城下その外 堀敷引』に"是は田地に溜水深くして水落 うべき『地方凡例録』(寛政年間)の「悪水 く水落兼
作毛水腐二成候か
又八城下な 水難を遁る堀敷なり...。とある。また美濃 江戸期の地方役人のハンドブックともい の「悪水吐之事」の項に"是八溜水深

先回の『KISSO』第四二号にて「輪中の

排水される水と理解すべきである。 に害になる水」のことで、 用水に対して

異にするものである。 帯の乏水地域の水争いとその性格を大きく 水争いであり、木曽三川中流部の扇状地地 する例がきわめて多い、これが輪中水論の と低位部 (下郷、下筋) の村々が対立抗争 中、さらに同一輪中の高位部 (上郷、上筋) この悪水をめぐって高位部と低位部の輪

悪水吐圦樋」による排水

げ」「伏越」などがあるがとくに とが記されている。 本阿弥新田では七艘の圦樋のあるこ 他に同規模の圦樋が三艘、また北の の圦樋により揖斐川に落している。 あり、全長約二九メートル 高さ 法高六尺横四間...」(筆者傍線)と 揖斐川筋字柳山二設置ス長十六間内 では「本村外十ヶ村組合悪水吐圦樋 ている。 例えば高須輪中の万壽新田 編」には調査項目に圦樋が設けられ 査した『各町村畧誌』の「下石津郡 治一四 (一八八一) 年に岐阜県が調 樋による排水が一般的であった。 では、排水機出現以前には悪水吐圦 地盤高の低位の感潮河川流域の輪中 悪水落 (悪水排水)には「江下 ハメートル、幅七 三メートル

> 発見された。これは全長四五 三メートル 斐川左岸堤の小段下より、かつての圦樋が 平成八年二月に高須輪中の海津町金廻の揖 農業土木や産業考古学の分野でも貴重な遺 料館前に展示されている。この復元圦樋は より復元されて、現在は海津町歴史民俗資 れて当時の建設省木曽川下流工事事務所に の大規模なものであった。これは発掘さ より機能を失い取り壊されるが、たまたま



発掘復元された悪水吐圦桶 金廻四間門樋 (海津町歴史民俗資料館提供)写真(1)

TALK & TALK

不破郡老佐村

井山的衛門 好百信名惣代教

見の価値はある。(写真1) 水のきびしさを体得できる展示物であり 産であるとともに 遺物を通して輪中の悪

テ寺鐘ヲ鳴ラシ嘯集シ遂ニ萬壽騒動を惹起 例ノ如ク復旧セズ 為メニ破壊入水セシモ は二尺の水位) ニシテ 此災アリシハ前年 田大江落圦樋破壊シテ高須輪中百余村入水 動記』に「天保六乙未年四月三日(萬壽新 動の基となった所である。後世の『萬壽騒 中地域における江戸期最大の水争い万寿騒 の大江川筋の万寿樋門 (大江悪水落) は、輪 あるように天保六年の修築は手抜工事であ ... 圦樋ヲ修ムルヤ笠松郡代 . 二賄シテ(旧) ノナリト伝エラレシ.. 是ヲ以テ村民憤慨シ この発掘された圦樋より約千メートル北 ...民衆集ルモノ約一万許形穏カナラス..」 · 当時揖斐川僅カ二四合 (筆者注 一合

> して鎮圧されたが、その結果、磔、獄門、 るとして一揆となり、大垣より藩兵が出勤 入墨追放などの処刑をうけている。

上郷と下郷の対立と株井戸

南部は低湿な後背湿地である。 ルである。高須輪中では比高差三メートル 部では三メートルでその比高差は九メート 輪中では北部の標高十二メートルに対し南 が北高南低であることである。 地形に起因している。それは輪中の地盤高 悪水をめぐる水論発生は多分に輪中の微 地形的には高位部は自然堤防卓越地域 例えば大垣

候付今後右面村內現在人心路邊塘於故障無為事 豪今般本都後所 海流論 基于雙方如解 っても土地利用や水利慣行を異にする。 須輪中の高位部の海西地区の畑地率四ーパ 対し西江では二二パーセン - セントに対し低位部の西 耕地の〇 四パーセントに 前の堀田分布でも前者では 低率となる。また土地改良 江地区は一五パーセントの

十六島面村地内水除邊塘園是逐年論

交換

前條如和解候行三今後表位果奈面村

夢或

條

明治17年

トの高率となる。

水防土手第多或平衣島两村。於多新規水路土车

置去發生一元時,雙方示該以承

題となり、ここに輪中特有 の水論をめぐる対立抗争の 展する抗争となる。 られると流血事件にまで発 治的な力関係によって歪め る。しかしこの水倫理が政 する義務をもつ慣行が生ず 村々になんらかの形で補償 先して上郷の村々は下郷の れは下郷の人々の利益を優 の水倫理観が培われる。 運命を負う下郷の立場が問 郷と下郷の対立において常 論の自然的基礎となる。上 熟談和解のための様々な約 に上郷の悪水をうけ湛水 この北高南低の地形が水 排水に悩まねばならぬ

可愛通聽談

俊村其記しる名庫一署

掉

11日本

不被郡厚原村

西跟伊藏珍百萬名花車

東田門 兒五代 孝賀 答

能多文者高

一度意と中う霊力可致事

このような地形的環境は同一輪中内にあ

當萬 組 申 6 須 株 候 拔 等 答 百 丰 = P 定 安 石 約 本 方 衛 之候 之 街中 分 相 西 足 77 1 候 村 出 郡 相 事 須 重 27 御 仕 = 候 御 抹 古艺 官 處 龍 # 伊 日日 P 村 方 B 甘 相 御 石 理 行英 村

株井戸定約之證

明治9年 (岐阜県歴史資料館蔵)写真(3)

定が永年にわたり慣行されてきた。 (写直

の水論の熟談和解策として生れた慣行が「株 の村々は笠松堤防役所に出訴した。具体的 渋之余 彼是騒立不穏之事有之..」と下郷 れに「堀抜井戸之儀八享和年中下郷村々難 村々では堀抜井戸による灌水を始めた。そ 南部では湛水に苦しんだ。そのため北部の きに述べた地形から北部が旱害に悩むのに を端的に表すものとして株井戸制がある。 さ には上郷村々の堀抜井戸の全廃を訴えた。こ これらの慣行のなかで輪中地域の水倫理

捜索申出候者へ賞與し其半を門樋其他費用 有之者違約金として左之通金貨差出其半を 定書に (写真 3)「…下郷取締役不時ニ巡廻 えば明治九 (一八七六) 年の高須輪中の約 当という経済的補償を行うものである。例 でなく その株代金で下郷の村々に水腐手 点検可致儀も有之...窃二堀換筒浚分水等於 この制度は堀抜井戸の数を制限するだけ

> 現している。 に充当するという輪中の水モラルをよく具 た株代金や違約金は排水樋門の維持修理費 り、その取調べは下郷の人々のみによる。 合は、その村全部の株井戸を取り壊すとあ 事」とあり株井戸以外の隠堀を発見した場 者は其人に関せず該村株井戸悉皆取潰可申 と相備置可申事..但株外隠堀隠分水致し候

『日本国語大辞典』第一 研究岐阜第七六号 伊藤安男、発掘された輪中の圦樋」郷土昭和四七年 小学館 平成九年 巻 六三頁 岐阜県

伊藤安男「輪中の水論郷土資料研究協議会 伊藤安男・青木伸好。輪中。一八八~一年(美濃民俗文化の会 伊藤安男「輪中の水論をめぐる慣行」1) の形式分類 」 歴史地理学会報第八 美濃民俗九四~ 九六号 昭和五一年 歴史地理学会 定杭約定とそ 昭和五〇

IALK&TALK

昭和五四年

神社を建て、毎日のようにお参りしたのでした。 何もかも奪いとっていく水。 蛇の宮というお社があり、大蛇が住んでいました。 遠浅神明神社が再建されたのは、 天文一三年(一五四四)、こうして遠浅という集落の川岸に なんと神さまをお祀りする祠ではありませんか 百姓の甚平が川からそろりと引き上げると 昨夜の大水も、地を揺るがすほどの恐ろしさ 困り果てていました。 村人たちは両岸に水難除けの願いを込めて そんな恐ろしい水を鎮めようと、 洪水の危険もきわめて高い場所でした。 於多井川に合流したりと、交通の難所であり 揖斐川は明治時代になるまで、この辺りで川幅が急に狭くなったり 言い伝えが古くから語りつがれていました。 たちまち、川に濁流が渦巻いて、舟を沈めてしまうといっ 船頭さんはここを通るとき、二つのお社を拝まないと むかしから、揖斐川のこのあたりは、尾張と伊勢を結ぶ水路 徳川家康が幕府を開いた慶長八年(一六〇三)のこと 長島攻めで、お社も打ち壊されてしまいました。 遠浅神明神社が建立されました。 そんなときのこと。 お日さまに照らされて、キラキラ輝いていました。 長島の百姓たちは毎年のように襲う洪水に この大蛇は川をわたり、二つのお社を行き来していたようです。 この社の揖斐川越えの対岸、蛎塚といつ集落には 上流からプカリ、プカリと何か流れてくるではありませんか。 もったいないことじゃ。さっそくお祀りしよう」 昨夜の大水で、流されてきたにちがいない。 しかし、長島じゅうを焼きはらった織田信長の 夜が明ければ、川はすっかり穏やか表情 むかしのこと 神 朗神

木曽川文庫利用案内



遠浅神明神社は今も西外面に残されており

水神さまとして、人々の信仰を集めています。

《開館時間》午前9時~午後4時30分

館 □》毎週月曜日·祝祭日·年末年始

館 料》無料

《交通機関》国道1号線尾張大橋から車で約10分 名神羽島I.Cから車で約30分 東名阪長島I.Cから車で約10分

お問い合わせ》 船頭平閘門管理所・ 木曽川文庫 〒496-0947 愛知県

海部郡立田村福原 TEL(0567)24-6233

弊誌では、読者のみなさんの声で構成するコーナーを 企画しています。身近で起こった出来事、地域の情報など をお知らせください。

「KISSO」編集 FAX (0567)24-5166 宛先

今号の編集にあたって、北海道苫前町の皆様及び長島町 の皆様、ありがとうございました。

又伊藤安男様には輪中地帯の悪水問題について2回に 亘りお世話になりました。改めてお礼申し上げます。 苫前町の緑の大地と林立する白い発電風車は、すばら しい眺めでした。

次回は、長野県開田村を特集します。

木曽川文庫ホームページ

http://www.kisogawa-bunko.cbr.mlit.go.jp

表紙写真

上左: 北海道苫前町の風力発電 上中:開拓百年碑 上右:親しみのある水辺空間をめざす長島川 下:伊勢湾岸道路とトゥインクル

平成14年7月発行

発行: 国土交通省中部地方整備局木曽川下流工事事務所 〒511-0862三重県桑名市播磨字沢南81 TEL(0594)24-5715

木曽川下流工事事務所ホームページ URL http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu

制作:財団法人河川環境管理財団 〒450-0002愛知県名古屋市中村区名駅四丁目3番10号(東海ビル) TEL(052)565-1976